



15日、9時30分に沖端水天宮前を出発した水上パレードは、およそ80分かけて三柱神社に到着。勝ち星をあげ、横綱に上がってほしいとの願いから川上りとした。パレード船は本場所の取組数にちなみ15艘。掘割沿いには隙間なく観衆が並び、大関昇進を祝う小旗を振ったり、声援をかけたたりして祝った。市民栄誉賞の授賞式は三柱神社に隣接する高畑公園で行われた。市民栄誉賞の第1号となった大関には、副賞としてJA柳川から体重と同じ柳川産米174kgと、県有明海海苔共販漁連からノリ1年分が送られた。



13日、大関を乗せた車が着くと、3発の花火が上がった。大関が車から降りてくると、近所の人たちからのおめでとうの声と、子どものころの愛称「かつく〜ん」の呼び声に笑顔で応えた。自宅に着いた大関は仏壇に向かい、3年前に亡くなった祖父の一男さんの遺影に手を合わせた。その後、記念撮影の求めに気さくにに応じていた。

愛される大関に

琴奨菊関の祖父の弟
江口敬吉さん(佃町・73歳)



大関は小さいころから、ごはんをよく食べていたので、同級生の中ではひとまわり大きい子でしたね。小学校の高学年になったある日、大関とのぶつかり稽古を終えた兄(祖父一男さん)が真っ赤になった胸を見せてきて「稽古の相手はもう無理だ」と言ってきたので、そこまで強くなったのかと感心したのを覚えています。

明德義塾中学校(高知県)での厳しい稽古にも弱音は吐きませんでした。一度だけ「このままやっつけていけるか不安」と相談を受けたことがあります。翌年、すぐ上の兄が明德義塾高校に進学したので、励まし合いながら練習に耐えたそうです。

最近でも、時間を見つけては帰省してくれる家族思いの優しい子です。兄が亡くなる前に入院したときは、すぐ飛行機でかけつけて看病してくれました。立派に大関になった姿を兄に見せてやりたかったです。皆さんに愛される大関になってほしいですね。

は「皆さんの応援で大関になれました。人間的にも大きくなるよう日々精進します」と答えました。

10月15日 この日は大関昇進報告水上パレードと柳川市民栄誉賞授賞式が行われました。午前9時30分、沖端水天宮前から三柱神社に向け15艘のパレード船が出発。大関の雄姿を一目見ようと、およそ2万人の人が掘割沿いと授賞式が行われた高畑公園に押し寄せました。柳川市民栄誉賞の初受賞者となった大関はあいさつで、「皆さん、ただいま」と第一声をあげ「頑張ってたよかった。自分は日本一の幸せ者」と会場に詰めかけた観衆に感謝の気持ちを伝えました。



授賞式の結びに大関のさらなる活躍を願い全員で万歳三唱

10月13日 佃町の琴奨菊関の実家前には、大勢の報道陣と近所の人たちが、大関の帰りを待ちわびていました。午後5時30分過ぎ、大関を乗せた黒いミニバンが到着。車から大関が降りてくると、集まった人たちが「おめでとう」の声が上がりました。帰宅した大関が、真っ先に向かったのは、祖父一男さんの遺影が飾られた仏壇です。大関は静かに手を合わせ、大関昇進を報告しました。

10月14日 県庁で小川洋知事への報告の後、大関は立花寛茂後援会長らと、午後2時30分に市役所柳川庁舎に到着。金子市長は「初優勝と横綱を目指して頑張って」と激励。大関



おかえりなさい大関

大相撲佐渡ヶ嶽部屋の琴奨菊和弘関(本名・菊次一弘)が10月13日から15日まで、大関に昇進して初めて帰省しました。大関の帰省に合わせ、15日には、市と琴奨菊後援会の共催で大関昇進報告水上パレードや、制度ができて初めての受賞者となる柳川市民栄誉賞の授賞式が行われ、祝賀ムードは最高潮に達しました。今回は帰省した大関琴奨菊関の3日間を紹介します。

2万人が琴奨菊関の大関昇進を祝福

14日、大関は金子市長に昇進報告のため柳川庁舎を訪問。玄関で市職員から花束が渡された。会場の席には、水の郷で大関確実となる12勝目に喜ぶ市民を写した写真を掲載した、10月15日号の広報やながわが置かれ、手に取った大関は顔をほころばせて見入っていた。

